

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

<p><エントリーシート></p> <p>※事務局記入欄</p> <p>No. : A-34</p>	<p>研修成果活用部門 (平成 29 年学校組織マネジメント指導者養成研修)</p>	<p>学校名・氏名 山口大学教職大学院・田中由起枝 (萩市立大島小中学校)</p>
<p>活動名 小中一貫カリキュラム開発 SWOT 分析と戦略マップの活用</p>		
<p>課題の設定：勤務校が平成 30 年度から小中一貫教育校としてスタートするにあたり、その核となる小中一貫カリキュラムを作成することとした。その際、小中一貫教育と極めて親和性の高いコミュニティ・スクールの機能を活用し、「萩大島地域の人、もの、こと」を活かした、9 年間の系統性・連続性・一貫性のあるカリキュラムを主役である児童生徒の視点を存分に活かしながら開発するという課題を設定した。</p>		
<p>方針・計画：児童生徒に身に付けさせたい力を明確にし、それを児童生徒と学校、地域関係者が共有しながら萩大島地域の特性を存分に生かした教育活動を展開すること。大人からの押し付けではなく、児童生徒の視点で「萩大島地域を魅力化する」ための活動をチームごとに考え、実践すること。主体性を発揮するために、児童生徒一人ひとりが戦略マップを作成し、具体的なゴールやそれを達成するための手立てを設定した。 実践後の「振り返り」によって児童生徒に目指す資質・能力が身についたかどうかを自覚させることで、新たな気づきと学びへの意欲や期待を誘発することを目指した。</p>		
<p>活動内容：学校を取り巻く環境分析(写真1)を行い、学校としての「強み」と「機会」を活かしたカリキュラム編成を行った。(写真2) そのカリキュラムを土台として 4 チーム(萩大島の里海、萩大島の里山、萩大島の伝承、未来創造人)に分かれ、児童生徒が各自で戦略マップ(萩大島の未来予想図)を作成(写真3)し、計画的に実践を重ねた。(写真4) 毎時間リフレクションを行い、次時の学習内容に見通しを持ったり、自分自身や友人の良さに気づいたりした。(写真5) 行事の終了後には直後改善ワークショップを行い、課題から次回への改善策までを打ち出した。(写真6) これまで大人だけで行っていた行事の振り返りにも児童生徒あるいは中学生が参加することで振り返りの記述内容が企画側の視点へと成長した。(写真7) また、児童生徒は各チームのメンバー全員の対話による課題改善を積み重ねてきた。(写真8)</p>		
<p>活動の成果：児童生徒の主体性が飛躍的に向上したこと カリキュラム開発にあたり、児童生徒が SWOT 分析を行い、様々な立場の大人との熟議を重ねながら具体的な学習内容を考え、構想したことで、学習に対する当事者意識が芽生え、学校生活の様々な場面で児童生徒の主体性が増し参画意識が醸成された。実際に中学生は、この学びで身についた力として、リーダーシップ、企画力、礼儀、伝える力、責任感、計画立案力、段取り力を挙げている。さらに、この学びの良さと、日ごろは関わる機会のない地域の方々や触れ合うことで地域の方々の温かさや優しさを実感したこと、これまで知らなかった地域産業の魅力や伝統的な建造物の価値を知ったことなどを挙げている。始めは遠慮がちであった小学生も活動を重ねるうちに、自分の考えを隠すことなく発言するようになり、「自分もあのように行動したい」と中学生をロールモデルにしたりといった小中学生の共学びによる成果も得ることができた。 教職員からは、SWOT 分析とその後の学習内容の考察が土台となり、児童生徒の考えやアイデアが整理され、具体的なイメージをもって戦略マップを作成することができたこと、地域の方から児童生徒がダイレクトに様々な情報を得ることで、情報を取捨選択する力やコミュニケーション能力が向上したこと、各チームの活動の中で PDCA を実践することで課題解決力や外部との交渉の仕方を身に付けることができたことといった成果が挙げられた。そして何より、地域の方々からは我々にとっての学びになるし、元気をもらえるという声をいただいた。</p>		
<p>アピールポイント(アイデアや工夫)：児童生徒が構想する「ふるさと大島学習」 ・小 3 から中 3 までの児童・生徒が縦割りチームで、萩大島地域の SWOT 分析を行い、「萩大島地域の魅力化」に向けて、主体意識をもって地域の強みを活かした戦略マップを作成し、実際に活動してきたこと。 ・戦略マップでゴールまでの道筋を可視化することにより、児童生徒がチーム一丸となって活動を進めてきたこと。 ・児童生徒が「主体性」「関わる力」「粘り強さ」の 3 つの力を常に意識して学習を進めてきたこと。 ・萩市教育委員会主催のミドルリーダー研修会にて、講師として本実践のワークショップ研修会を実施したこと。 ・県内市町の教育長会議、市内小、中学校の校長会において本取組の概要を発表したこと。</p>		

児童生徒が構想する「ふるさと大島学習～萩大島魅力化プロジェクト～」
 ①SWOT分析
 (児童生徒×保護者×地域×教職員)
 ②強みを活かしたカリキュラムの作成
 (写真1)



児童生徒が構想する「ふるさと大島学習～萩大島魅力化プロジェクト～」
 ①改善策についての熟議
 ②児童生徒の意見を反映
 (写真8)



児童生徒が構想する「ふるさと大島学習～萩大島魅力化プロジェクト～」
 ①毎時間のリフレクション
 ②直後改善ワークショップ
 (写真6)



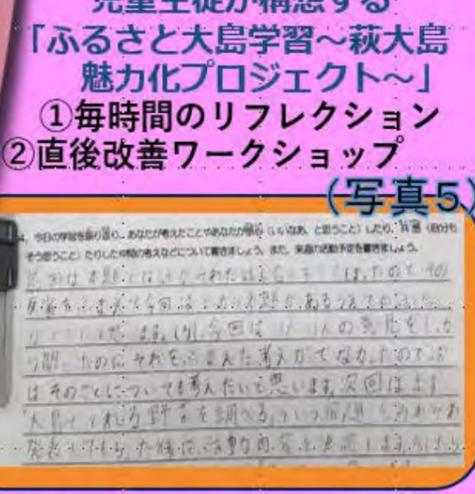
児童生徒が構想する「ふるさと大島学習～萩大島魅力化プロジェクト～」
 ①児童生徒が個々で戦略マップを作成
 ②チームごとに戦略マップの作成
 ③魅力化プロジェクトの実践
 (写真3)



児童生徒が構想する「ふるさと大島学習～萩大島魅力化プロジェクト～」
 ①毎時間のリフレクション
 ②直後改善ワークショップ
 (写真5)



萩大島の未来予想図
 萩大島の魅力化
 萩大島地域の強みが集まる7つの顔
 大きな達成目標
 2学期
 1学期



児童生徒が構想する「ふるさと大島学習～萩大島魅力化プロジェクト～」
 (写真4)



児童生徒が構想する「ふるさと大島学習～萩大島魅力化プロジェクト～」
 (写真7)



萩大島の未来を創る人材を育てる